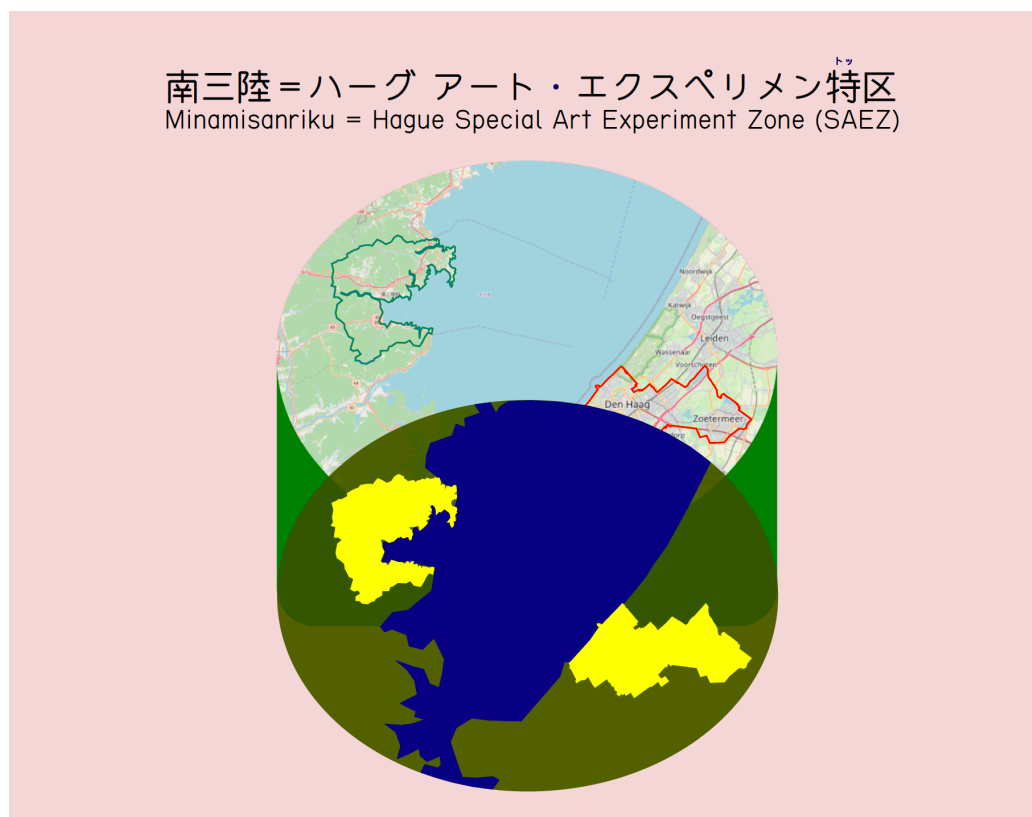


「南三陸 = ハーグ SAEZ（アート・エキスペリメン特区）」始動！



<https://msr-haag.org/>

「南三陸 = ハーグ SAEZ（アート・エキスペリメン特区）」*は、宮城県南三陸町とオランダのハーグという地球上で遠く離れた地域を出会わせ、文化、経済を相互に活性化するためのハイブリッドなアートの「特区」です。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の到来により、人々の対面や移動が制限された2021年春に、V-AIR（ヴァーチャル・アーティスト・イン・レジデンス）から開始します。本ページのビジュアルは、遠く離れ、大きく異なる地政や歴史を持つ二つの地域が、突然海をはさんでヴァーチャルに向かい合う（！）という、一種シュールな「出会い」を示しています。ポストパンデミックの時代に、地理的距離を超えて、新しい地域同士そしてアーティストと人々、アーティスト同士のネットワークが始まろうとしています。

主催：南三陸 AIR／助成：EU・ジャパンフェスト日本委員会、駐日オランダ王国大使館

特別協力：一般社団法人南三陸研修センター

現地サポート：佐藤太一（株式会社 佐久）／コーディネート：岩田康宏／キュレーション：四方幸子／

企画：錦 良成（a.k.a いなり、from TOFU）連絡先：msr-haag@gmail.com

*SAEZは、「SEZ（Special Economic Zone SEZ）／経済特区」をもじったもので、「Special Art Experimental Zone」を意味する。「エキスペリメン特区」は、「エキスペリメント（実験）」と「特区（トック）」を合わせた造語。

[南三陸 = ハーグ SAEZ（アート・エキスペリメン特区）について]

ポストパンデミックの時代には、多くのイベントがオンライン開催に切り替わり、誰でもどこからでも参加できるようになりました。急激に地理的距離が無意味となった中、「在宅」「リモート」の新規性はすでに失われたといえるでしょう。今後も移動しにくい状況が続くなか、ヴァーチャルとフィジカルによる新たな体験や空間の構築が求められています。

元来AIRはアーティストが現地に滞在し、リサーチや制作、時には発表を行うものですが、それが困難な現在、「SAEZ」のアーティストはヴァーチャル視察から開始し、リサーチ、交流や作品発表を継続的に行います。そしていずれは、オランダのアーティストが南三陸に、日本のアーティストがハーグに滞在し制作することを目標としています。

分水嶺からの水が森を介して内湾に流れ込みむ南三陸町は、自然が豊かで海山の幸に恵まれた地域です。東日本大震災以降、復興の中で人々は、環境や歴史を護りながら、食や地域文化を育んできました。北海沿岸に位置するオランダ第3の都市ハーグ（デン・ハーグ）は、オランダの議事堂や宮殿、中央官庁や複数の国際機関があり、「平和と司法の街」と呼ばれています。

南三陸町とハーグは、互いの違いから相互触発を生み出す可能性を秘めています。そしてこの二地域は、面積がほぼ同じ（それぞれ163.40 km²と164.38 km²）で、ともに海岸町である点で共通しています。違いの中の共通点。日蘭のアーティストは、まずV-AIRから開始し、それぞれの直観や想像力を駆使して、南三陸とハーグに思いがけない関係や体験、そして記憶の場を創造していくことでしょう。

2021年には、日本のアーティストが南三陸町を、その後オランダのアーティストが南三陸をV-AIRで訪れ、オンラインやオフラインでプロジェクトを展開します。日本とオランダをつないだアーティストの対話やイベントも開催の予定です。

[プロジェクト]

南三陸 = ハーグ SAEZ（アート・エキスペリメン特区）

時里充+福留麻里「山びこを持っていく（Transporting Echoes）」



時里充と福留麻里は、2月から4回にわたって、地域の皆さまのご協力のもと南三陸をヴァーチャル視察し、構想を練りました。3月からは、南三陸の佐藤太一さんと映像や地元産のモノを介したコラボレーションを展開、その成果を展示いたします。今後3年間の予定で、継続的に南三陸でのプロジェクトを発展させていく二人の、最初の成果をご覧ください。*断片的な映像をInstagramで公開しています（展示風景は、会期終了後にアップ予定です）。

[イベント] (展示期間：4/24-5/5、トーク開催：4/25)

<https://msr-haag.org/events/>

展示

時里充+福留麻里「山びこを持っていく」展

期間：2021年4月24日（土）-5月5日（こどもの日）9:00-18:00

会場：南三陸まなびの里いりやど ラウンジ

入場料：無料

*新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用、アルコール消毒、検温、来館者カード記入のうえ、ご来場いただくことになります。

トーク（会場+オンライン）

南三陸＝ハーグ SAEZ（アート・エキスペリメン特区）

キックオフ・トーク「南三陸＝ハーグ SAEZとは？初バーチャルAIRのおひろめ！」

日時：2021年4月25日（日）14:00-17:00（日本時間／7:00-10:00 オランダ時間）

会場：南三陸まなびの里いりやど ラウンジ <https://ms-iriyado.jp/>

入場料：無料 定員：12名（事前予約制）

+ ライブ配信 <https://youtu.be/XCa60XuUx9k>

出演：阿部忠義（南三陸ラーニングセンター 理事）、佐藤太一（株式会社佐久 専務取締役）、時里充（メディアアーティスト）、福留麻里（ダンサー・振付家）、四方幸子（南三陸AIRキュレーター）、岩田康宏（南三陸AIRコーディネーター）、錦良成（a.k.a いなり from TOFU／ロッテルダム）

14:00-14:20 「"南三陸＝ハーグ SAEZ"とは？」（岩田康宏、四方幸子、錦良成）

14:20- 14:45 「震災復興10年～つながりで地域おこし」」（阿部忠義）

14:45-15:10 「南三陸と山や荒島のこと」（佐藤太一）

15:20-15:50 アーティストトーク 1「それぞれの活動について」（時里充、福留麻里）

15:50-16:40 アーティストトーク 2「山びこを持っていく」（時里充、福留麻里、佐藤太一）

16:40-17:00 オープントーク（会場+オンラインChat）

[アーティスト・メッセージ]

3年間かけて行われる「南三陸＝ハグ」プロジェクトは、山口在住の時里充と福留麻里が、バーチャルで南三陸を視察するところからはじまりました。

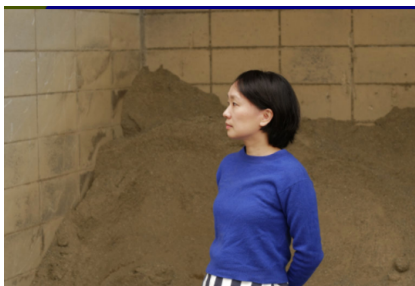
南三陸の自然や生活、信仰や、東日本大震災を巡るお話を様々な角度で伺う中で、これからプロジェクト3年間で触れていきたい領域として、森、山、島、海、生活、木々や宇宙、様々なスケールの時間や循環、神様のことと科学的なことのつながり、土地で受け継がれる祭りや踊りや民話、土地に宿るものと、遠い土地同士で呼応すること、リアルとバーチャル、それを繋ぐもののこと、などが浮かび上がってきました。

これらのことを、バーチャルとリアルを横断し、土地の方々との交流やリサーチ、プロジェクトメンバーの皆さんとの対話と思考の交換、観察と実験と検証などを繰り返し、世界の変化にも耳をすませながら、今の時代における制作方法、アウトプット方法の可能性も含めて探っていきます。その第一歩として、4月の発表では、身近な事から出発します。南三陸と山口、離れた土地どうしで、それぞれの日々の中にある記録や、リサーチの断片などを短い映像としてコラージュしていきます。

今回、南三陸側の映像でご協力いただく佐藤太一さんが、ご自身の仕事場でもある山をバーチャル視察で案内してくださった時に、年輪に刻まれ重なった時間の層のお話しをしてくださいました。年輪に様々な情報が刻まれて一本の幹になっていくように、ふたつの離れた土地の時間の層を、ひとつの時間、映像として重ねていきます。

2021年3月16日 時里充＋福留麻里

[アーティスト・プロフィール]



福留麻里



時里充

時里充 (Mitsuru Tokisato) :

メディアアーティスト。1990年兵庫県生まれ。画面やカメラに関する実験と観察を行ない、認知や計量化といったデジタル性に関する作品を制作発表。展覧会に「エマージェンシーズ!022『視点ユニット』」(NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]、東京、2014)、「見た目カウント」(SOBO、東京、2016)、「アスリート展」(21_21 DESIGN SIGHT、東京、2017)、「見た目カウントトレーニング#2」(gallery to plus、東京、2017)、「ラビットリーディング」(TABULAE、東京、2018)など。小林椋とのユニット「正直」などでライブ活動を行なう。山口情報芸術センター[YCAM]のInterLabに所属。「正直」や最近のYCAMでの仕事(篠田千明 新作オンライン・パフォーマンス公演「5×5×5本足の椅子」、テクニカル・ディレクター)では、オンラインとオフライン空間を多層的に組み合わせた身体やアバターを伴う表現で新たな境地を開いた。<https://tokisato.info/>

福留麻里（Mari Fukutome）：

ダンサー／振付家。2001年より新舗美佳と共にほうほう堂として活動。独自のダンスの更新を試みる。

2014年よりソロ活動スタート。劇場やギャラリーでの作品発表、川原、公園、道、誰かの家など様々な場所でのパフォーマンスやワークショップをはじめ、他分野作家との共同制作を継続的に行ない、いくつもの関係性とそのやりとりから生まれる感覚や考えや動きのはじまりを見つめ紡いでいる。2019年からだを巡る小さな指示書をSNSで発信する「ひみつのからだレシピ」プロジェクトを木村覚（BONUS）と共にスタート。2020・2021年度セゾン・フェローⅠ。最近作に篠田千明新作オンライン・パフォーマンス公演「5×5×5本足の椅子」がある。2020年より山口市在住。